

歴史文化学科考古学・民俗学専攻 カリキュラム・マップ (2018年以前入学生)

ディプロマ・ポリシー	考古学・民俗学専攻では、以下の能力を身につけた人材を養成します。 まず考古学・民俗学に関する幅広い知識を身につけ、日本の文化と歴史、異文化への理解を培うことによって、各自のアイデンティティを構築することができます。 次に、考古学・民俗学に関する専門的な知識を学び、資料の調査・収集・分析を行うための技術を習得します。またそのプロセスを通して、自らの課題を筋道立てて明確にする構想力、論理的に考えることができる思考力、自らの知見をわかりやすくまとめる表現力、議論が展開できるコミュニケーション能力を養います。 こうして得られた専門的な知識・技術と総合的な能力を基盤として、文化財や歴史に関する教育普及活動のみならず、広く社会に貢献することが可能となります。これらの能力を身につけた人に学士(考古学・民俗学)を授与します。	①論理的に思考する力 ②考古学・民俗学に関する基礎と応用の知識 ③調査・収集・分析・理解する力 ④構想・表現・伝達する力 ⑤アイデンティティを構築し、社会に貢献する力								
科 目 名	授業形態	配当年度	単 位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
						①	②	③	④	⑤
日本考古学の歩み	講義	1・2	2	日本考古学の発達の歴史と研究の現状を概観し、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代などの各時代の考古学について、トピックに即しながら、知識を深める。天理大学における考古学研究の伝統についても紹介する。	日本考古学の展開と成果、学問的課題について、事例に則して理解できる。	◎	◎			
日本民俗学の歩み	講義	1・2	2	民俗学の主要な研究者や学説、調査・研究方法の歴史を学ぶ。どのような研究者たちが、どのような目的のもと、どのような方法によりどのようなものを資料として捉えて収集・分析し、何を明らかにしてきたのかを理解する。	日本民俗学の歴史を学ぶことで、民俗学的な研究を行うにあたっての基礎的教養が身につく。	◎	◎			
考古学の諸相	講義	1・2	2	日本・中国・中国北方の3地域の比較考古学を行う。3地域の歴史の概要をトレースし、相互の関係を整理して比較の枠組みを確認する。食・住・墓・祭祀という同じテーマに沿って、地域ごとの考古学的知見を見る。これらを比較して、各地域の考古学文化を再認識する。天理参考館の展示を利用して、比較考古学を実践する。	1.考古学および関連諸分野を研究していく上で必要な幅広い考古学的知識が身につく。適切な研究テーマが設定できる。 2.異なる地域・分野の知見を比較検討する際に必要な方法がわかる。	◎	◎			
民俗学と現代社会	講義	1・2	2	「I.身の回りの文化と歴史」で、身近な事象も歴史的に形成された文化であることを確認する。「II.古風土記と近現代の伝説」では、説話の持続と変容を理解する。「III.災害伝承の展開」では、古代・中世・近世の龍蛇伝承に現れた災害観の展開をたどる。あわせて、伝承から具体的な災害の推定を試み、現代への教訓との可能性を検討する。「IV.正月行事の意味と諸相」は、授業で得た知識をもとに、流布される正月文化についての言説を判断する機会とする。	1.民俗学によって現代社会を批評できる基礎的な知識や判断能力が身につく。 2.民俗文化の歴史性が理解できる。 3.関連資料の形態や歴史的性格について、基本的知識が身につく。	◎	◎			
文化財行政学	講義	2・3	2	百年以上の歴史をもつ、わが国の文化財保護行政のあゆみと、その特徴や文化財の置かれている現状を把握する。文化財から文化の理解に繋がる手立てや方法について学習する。国民は文化財を享受する一方で保護する責任があるという認識に立ち、文化財を将来にどのように引き継いで行かねばならないかを考える。	1.わが国の文化財の枠組みと特徴がわかる。現在政策として行われている文化財保護行政の実際と課題が理解できる。 2.将来文化財保護に携わる場合に適応できる思考と知識の基礎が習得できる。	◎	◎			
文化遺産の保存と活用	講義	2・3	2	奈良県に所在する考古学的な文化遺産とその保存・活用について、正倉院から時代を遡ってゆく形で概観し、それぞれの文化遺産に関わるトピックを取り上げる。	1.文化遺産の保存に関わる取り組みや枠組みが理解できる。 2.文化遺産の保存と活用をめぐる問題について、事例を通して具体的に理解できる。	◎	◎			
旧石器・縄文時代の考古学	講義	2・3	2	旧石器時代と縄文時代の研究史を整理し、遺構や遺物などに則した具体的な考古資料の分析や操作による研究方法と成果を講義する。	1.旧石器時代から縄文時代にいたる文化の特徴および文物の消長の理解を通し、人類の歩みが修得できる。 2.先史時代研究に欠かせない研究対象資料の、型式学的理解への前提的知識や技術が身につく。	◎	◎			
弥生時代の考古学	講義	2・3	2	考古学的な観点から、弥生時代とその社会を列島の歴史の中に位置づける。	1.弥生時代についての専門的知識を習得できる。 2.具体的な事例や研究に即して、考古学における方法論・理論について理解することができる。	◎	◎			
古墳時代の考古学	講義	2・3	2	古墳時代の概要の理解に努め、本学周辺の古墳、天理参考館の展示を積極的に利用する。古墳の変遷を通観し、古墳時代を構成する諸要素のうち重要な問題を取り上げて解説する。これらの知見を整理・総合し、当時の社会全体を復元的に理解する。	1.古墳時代についての専門的知識を獲得できる。 2.資料となる遺跡・遺構・遺物や専門用語を理解できる。 3.古墳時代の全体像が理解できる。 4.日本考古学(日本史)における古墳時代の位置づけ、東アジア世界における古墳時代の位置づけを考察する基礎が身につく。	◎	◎			
飛鳥・奈良時代の考古学	講義	2・3	2	日本という国家が成立する時代である飛鳥時代・奈良時代を理解するための考古学的課題について、基礎知識を得る。それぞれの時代について、寺院、都城、瓦の生産と流通、土器の生産と流通、金属生産の各テーマを通じて概観し、時代の流れと特質について、比較しながら理解を深める。	飛鳥時代・奈良時代の資料と時代の全体像が理解できるよう、関連する考古学的課題の基礎知識が身につく。	◎	◎			
中近世の考古学	講義	2・3	2	「食・住」に重点を置き、「うつわ(器)」について縄文時代から近世までの「土器」について学習する。また、「集落」について歴史時代のデータを紐解き、「縄文期城郭の成立と発展」と題し日本の中世から近世への過渡期にみられる社会情勢と併せて紹介する。さらに死生観について縄文時代から近世までの「墓」の事例を紹介し考えたい。	歴史考古学の知識が身につく。その時代の社会を復元する上での考古学的手法が有効性が理解できる。	◎	◎			

<p>ディプロマ・ポリシー</p> <p>考古学・民俗学専攻では、以下の能力を身につけた人材を養成します。 まず考古学・民俗学に関する幅広い知識を身につけ、日本の文化と歴史、異文化への理解を培うことにより、各自のアイデンティティを構築することができます。 次に、考古学・民俗学に関する専門的な知識を学び、資料の調査・収集・分析を行うための技術を習得します。またそのプロセスを通して、自らの課題を筋道立てて明確にする構想力、論理的に考えることができる思考力、自らの知見をわかりやすくまとめる表現力、議論が展開できるコミュニケーション能力を養います。 こうして得られた専門的な知識・技術と総合的な能力を基盤として、文化財や歴史に関する教育普及活動のみならず、広く社会に貢献することが可能となります。これらの能力を身につけた人に学士(考古学・民俗学)を授与します。</p>				<p>①論理的に思考する力 ②考古学・民俗学に関する基礎と応用の知識 ③調査・収集・分析・理解する力 ④構想・表現・伝達する力 ⑤アイデンティティを構築し、社会に貢献する力</p>						
科目名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号				
						◎達成のために特に重要		○達成のために重要		
						①	②	③	④	⑤
生活文化史	講義	2・3	2	天理参考館所蔵の実物資料の観察をはじめ、考古資料や民俗資料、伝承技術や現代の技法まで、映像や残された実物資料に実際にふれつつ、幅広い情報から衣生活文化の流れを学ぶ。	衣生活を中心に、日常生活・生産生活・精神生活の変遷が理解できる。	◎	◎			
比較民俗学	講義	2・3	2	不開講	不開講	◎	◎			
生と死の民俗学	講義	2・3	2	通過儀礼について概観した後、妊娠・出産、子育てにまつわる民俗と現代的様相、病気への対応と病の民俗、その国際比較、死の儀礼と葬送、および現代的様相を扱う。	誕生、病気や老いに関する観念、死生観について、伝統的側面に加え、現代の様相や異文化での事例なども踏まえた理解が深まる。	◎	◎			
民話と伝承	講義	2・3	2	口承文芸や民話の内容や分類について説明する。民話の調査や研究の方法について具体的に説明する。様々な民話について、本文を読んで、構造や表現を分析する。	1.民話にこもる先人の信仰・思考法・叙言などが読み取れる。 2.民話の調査・研究方法についての知識が得られる。	◎	◎			
祭りと儀礼	講義	2・3	2	日本列島の祭りと儀礼について食文化の観点から考察する。	食文化の観点から祭りと儀礼を学ぶことを通じ、日本列島の人々の自然観・生命観が理解できる。	◎	◎			
民俗誌研究	講義	2・3	2	都市祭礼についてのエスノグラフィーを読み進める。日本三大祭の一つの大阪天満宮の例大祭、いわゆる天神祭に関する民俗誌を中心に読み進め、ほかの祭礼や芸能との比較も試みる。祭礼を支える様々な団体、縁(つながり)、芸能、また、天神祭りに付随して行われるイベントや歴史などについても考える。	1.エスノグラフィーを読み進めることで、特定の地域や対象について総合的、包括的に理解する経験を積むことができる。 2.エスノグラフィー自体がはらむ限界と問題性に気がつく。	◎	◎			
考古学・民俗学特講1[文化財探査]	講義	2・3	2	考古遺跡を対象とした各種の非破壊調査法の概要を述べ、物理探査法の中から、主として地中レーザ探査法、磁気探査法、電気探査法を取り上げ、原理、特徴、得られる成果について解説する。天理大学が保有する探査装置を使用して実際の探査を体験する。	1.文化財探査の各手法の原理と特徴がわかる。 2.実際の探査方法、得られたデータの解析と判読方法が身につく。		◎	◎		
考古学・民俗学特講2[環境と考古学・民俗学]	講義	2・3	2	考古学遺跡、民俗資料について、環境や材質を調べる方法と、その基礎となる岩石鉱物学、堆積学、土壌学、地質学、植物学の知識を学ぶ。	1.岩石同定、木材同定、花粉分析、珪藻分析、寄生虫卵分析の原理および研究成果が理解できる。 2.その基礎分野となる岩石鉱物学、堆積学、土壌学、地質学、植物学の知識が身につく。		◎	◎		
考古学・民俗学特講3[考古学と分析化学]	講義	2・3	2	特講2を深め、岩石材質、木材材質およびその環境面、繊維材質、森林文化、農耕文化を調べる具体的な方法を実践的に行い学ぶ。	古墳の石材調査、木材や繊維の顕微鏡下での同定、種実素材および種実同定の実際、花粉分析、寄生虫卵分析、珪藻分析、寄生虫卵分析などの実際の、体験的な知識・技術が身につく。		◎	◎		
考古学・民俗学特講4[実験考古学]	講義	2・3	2	発掘調査で出土した遺物を、考古学的な情報や民俗学的情報、文献資料、さらに伝統工芸技術を博覧・駆使して、復原する。可能であれば、製作復原におよぶ。	出土遺物の用途や使用方法、さらには特定の素材や技術が選ばれたことの意味について考えることができる。		◎	◎		
考古学・民俗学特講5[文化財と保存科学]	講義	2・3	2	文化財の保存科学を主題とし、埋蔵文化財を中心として、保存処理の方法論の解説と実例の紹介をおこない、保存処理の考え方や原理に関する理解を得る。また、考古学研究における自然科学分析の活用を主題とし、主要な自然科学分析の原理を解説しながら、実際の研究事例を紹介する。考古学的課題の解決にむけて、多角的なアプローチを策定できる基礎知識を得る。	1.文化財の保存科学と自然科学分析の基礎を学び、考古学等の研究にどのように生かされてきたか理解できる。 2.それらが、今後どのように生かせるかについて見直しを持つことができる。		◎	◎		
原書講読1	演習	2・3	1	エジプト考古学における土器に関する基本文献をテキストとして選び、読み進め、解説を加えることで、学術英語の読解に対する基礎知識を養う。	英語による研究書の講読を通じ、考古学・民俗学の学術論文・報告書を正しく読み解くために必要な語彙・文法・構文の知識が獲得できる。		◎	◎		
原書講読2	演習	2・3	1	歴史文化学科でアジアを対象とする考古学や歴史学の専攻学問を深めるには朝鮮半島の歴史や文化にも目を向ける必要がある。そのため、朝鮮語で書かれた論文や報告書を読むトレーニングを行う。適宜、朝鮮語の文法についても説明を加える。	1.ハングル表記主体の専門書や論文、報告書などが読みこなす能力が身につく。 2.朝鮮考古学の基礎がわかる。		◎	◎		
原書講読3	演習	2・3	1	比較的読解しやすい中国考古学の文献をテキストとし読み進め、解説を加え、中国語と中国考古学に対する基礎を養う。	1.中国語の文献を読みこなす能力を身につく。 2.日本を含む東アジア地域の歴史・文化を研究する上で必要な素養を得られる。		◎	◎		
考古学実習1	実習	2・3	1	野外調査における主な対象は遺跡と遺構であり、これらの測量・実測の方法を、実践を通じて学ぶ。	1.野外における遺跡調査に必要な知識と技術を習得する。 2.遺跡調査に不可欠な測量機器の扱い方がわかる。 3.それを用いた測量図・実測図が作成できる。			◎	◎	

ディプロマ・ポリシー		考古学・民俗学専攻では、以下の能力を身につけた人材を養成します。 まず考古学・民俗学に関する幅広い知識を身につけ、日本の文化と歴史、異文化への理解を培うことにより、各自のアイデンティティを構築することができます。 次に、考古学・民俗学に関する専門的な知識を学び、資料の調査・収集・分析を行うための技術習得し、またそのプロセスを通して、自らの課題を筋道立てて明確にする構想力、論理的に考えることができる思考力、自らの知見をわかりやすくまとめる表現力、議論が展開できるコミュニケーション能力を養います。 こうして得られた専門的な知識・技術と総合的な能力を基盤として、文化財や歴史に関する教育普及活動のみならず、広く社会に貢献することが可能となります。これらの能力を身につけた人に学士(考古学・民俗学)を授与します。			①論理的に思考する力 ②考古学・民俗学に関する基礎と応用の知識 ③調査・収集・分析・理解する力 ④構想・表現・伝達する力 ⑤アイデンティティを構築し、社会に貢献する力					
科目名	授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号				
						達成のために特に重要		達成のために重要		
						①	②	③	④	⑤
考古学実習2	実習	2・3	1	野外調査の実践として土層断面図の作成した後、室内での整理・調査を実践する。実際の出土資料(遺物)を用いて、資料の扱い方、観察や記録の仕方、実測・拓本などの基礎的な知識と技術を実践的に学ぶ。野外・室内で作成された測量図・実測図を報告書に掲載するために必要な、図版のレイアウト・製図・版下作成を実践する。	1.野外調査で得た資料の整理・調査に必要な知識と技術を習得する。 2.出土資料(遺物)の実測、調査報告書のための図版作成の知識と方法を修得する。 3.それら実際の研究とのつながりを理解する。			◎	◎	
考古学実習3	実習	2・3	1	「考古学実習1」「考古学実習2」で学んだ考古学の調査研究のための基本技術を、実際の発掘調査で実践する。	1.調査区の設定から発掘作業、埋め戻しまでの発掘調査の方法や進め方が身につく。 2.出土資料の扱い方や記録の方法、事後の作業等が総合的に身につく。			◎	◎	
考古学実習4	実習	2・3	1	1. 測量学の基礎と、考古学で実際におこなう測量の違い 2. 製図学の基礎と、金属製品を中心とした考古学の実測の違い 3. 文化財の梱包を通じた、文化財の観察と取扱いの知識 4. デジタルレースによる製図 以上を通じて「考古資料や遺構から適切に情報を抽出するとはどういうことか」について理解を深める。	1.発掘現場や整理作業、遺物の検分などで求められる技術が向上し、深まる。 2.特に、トータルステーションを活用した測量法、金属製品の観察・実測方法が身につく。			◎	◎	
民俗学実習1	実習	2・3	1	民俗調査の歴史や実際の調査方法をテキストを用いて習得する。また、特定の地域をフィールドに定め、当該の調査地域に関する文献の収集と先行研究の成果を整理し、事前学習を行う。	フィールド・ワークをおこなう上で必要な基本的な知識と調査技術がわかり、調査計画が立案できる。			◎	◎	
民俗学実習2	実習	2・3	1	調査報告の作成までの一連の過程を学ぶ。	民俗調査の結果を整理し、報告書を執筆することができる。			◎	◎	
民俗学実習3	実習	2・3	1	調査テーマや調査項目を立案し、実際に一週間程度合宿して民俗調査を体験する。	1.フィールド・ワークをおこなう上で必要な基本的な知識と調査技術が身につく、民俗調査が実施できる。 2.民俗芸能の見学や、地域の人々との交流により、総合的人間的に成長する。			◎	◎	
考古学・民俗学基礎演習1	演習	1	2	考古学・民俗学専攻の学生として、専門的な問題について、主体的に動き、学び、考え、口頭や文字で発表し、文章を書く経験を積む。特定の課題について、文献や資料の収集・調査に取り組み、成果の発表をおこなう。	1.図書室・図書館での文献検索ができる。 2.参考館の施設と展示資料が活用できる。 3.インターネットの専門情報が利用できる。口頭発表ができる。 4.レジュメが作成できる。 5.レポートの書き方がわかる。		◎	◎		
考古学・民俗学基礎演習2	演習	1	2	天理の街とその周辺の環境を考現学の方法でしらべて発表することを通じて、フィールドワークの方法を身につけて面白さを体験する	1.日常の風景・事物を異化する視点から観察し、分析・考察する経験を通じ、自ら問題を設定し調べることが身につく。 2.調査成果をビジュアル的に表現することを通じて、成果を編集し公開する技術を習得できる。		◎	◎		
考古学・民俗学研究入門1	演習	2	2	考古学・民俗学にかかわる具体的な論文や研究書をとりあげ、内容の読み取り方や論文・レポートのスタイルを学ぶ。また、レポートの作成や発表を通じて、文献・資料の検索法、実務的な文章の書き方、効果的な報告法などを身につける。	1.論文や研究書の実践的な読み取り方が身につく。 2.論文・レポートのスタイルと作成法がわかる。 3.文献・資料の検索法、実務的な文章の書き方、効果的な報告法などを身につく、考古学・民俗学の研究に取り組むことができる。			◎	◎	
考古学・民俗学研究入門2	演習	2	2	考古学と民俗学の研究の基礎を学び、各自のテーマを決めて、研究を深める。山辺の道を歩き、フィールドワークの基礎を身につける。	1.教員との相談により、各自の研究テーマが深めることができる。 2.文献リスト、先行研究の要旨、レジュメの作成や、プレゼンテーションの経験、レポートの作成を通じ、卒業論文執筆の基礎的な知識・技術が身につく。 3.山辺の道でのフィールドワーク用のパンフレットの作成を通じ、学術文献に当たり、必要な情報をまとめる力が身につく。			◎	◎	
考古学・民俗学課題研究1	演習	3	2	考古学・民俗学に関し、興味のあるテーマについて研究し、結果を口頭で発表する。	1.卒業論文の作成にそなえ、関連資料の収集ができる。レジュメ・資料の作成ができる。 2.発表や議論をすることができる。 3.卒業論文で扱うテーマを絞り込むことができる。			◎	◎	
考古学・民俗学課題研究2	演習	3	2	考古学・民俗学に関し、興味のあるテーマについて、研究を深め、結果を口頭で発表する。	1.卒業論文の作成にそなえ、関連資料の収集ができる。 2.レジュメ・資料の作成ができる。 3.発表や議論をすることができる。 4.卒業論文で扱うテーマを具体的に絞り込むことができる。 5.論文の構成・章立てができ、参考文献一覧や注が書ける。			◎	◎	

<p>ディプロマ・ポリシー</p>	<p>考古学・民俗学専攻では、以下の能力を身につけた人材を養成します。 まず考古学・民俗学に関する幅広い知識を身につけ、日本の文化と歴史、異文化への理解を培うことによって、各自のアイデンティティを構築することができます。 次に、考古学・民俗学に関する専門的な知識を学び、資料の調査・収集・分析を行うための技術を習得します。またそのプロセスを通して、自らの課題を筋道立てて明確にする構想力、論理的に考えることができる思考力、自らの知見をわかりやすくまとめる表現力、議論を展開できるコミュニケーション能力を養います。 こうして得られた専門的な知識・技術と総合的な能力を基盤として、文化財や歴史に関する教育普及活動のみならず、広く社会に貢献することが可能となります。これらの能力を身につけた人に学士(考古学・民俗学)を授与します。</p>				<p>①論理的に思考する力 ②考古学・民俗学に関する基礎と応用の知識 ③調査・収集・分析・理解する力 ④構想・表現・伝達する力 ⑤アイデンティティを構築し、社会に貢献する力</p>						
科 目 名		授業形態	配当年次	単位	授業の主題	授業の到達目標	ディプロマ・ポリシーの番号 ◎達成のために特に重要 ○達成のために重要				
卒業論文演習1		演習	4	2	卒業論文の主旨の指導の下、論文のテーマを確定し、章立て文献目録を作成し、研究史をまとめ、中間発表を行う。	1.考古学・民俗学に関し、独自の研究課題を設定できる。 2.みずから課題を調査し、研究することができる。			◎	◎	
卒業論文演習2		演習	4	2	卒業論文の主旨の指導の下、夏期休暇中に実施した現地調査や資料収集などの作業成果を整理、分析し、論文の形にまとめる。	1.考古学・民俗学に関し、独自の研究課題を設定できる。 2.資料を調査・収集・分析・理解することができる。 3.論理的文章を構想し、発想を適切に表現し伝達できる。			◎	◎	
卒業論文			4	6	卒業論文の主旨の指導の下、在学中の学習・研究成果を総合的にまとめ、論文を執筆する。論文にもとづいて、教員による口頭試問を行う。	1.考古学・民俗学に関し、独自の研究課題を設定できる。 2.資料を調査・収集・分析・理解することができる。 3.論理的文章を構想し、発想を適切に表現し伝達できる。 4.研究成果を発表し、社会に問う経験を通して、自らの資質・能力・適性を理解し、自身の役割を考えることができる。			◎	◎	